

(様式 1)

# 令和 6 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立緑小学校
校長名	浮津 あゆみ

## 1 本校の学力に関する状況

### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・2年生では、全ての回答で区の平均を上回っている。</li><li>・全学年、全教科において、全国の平均を上回っている。昨年度の指導の成果といえる。</li><li>・無回答の児童が少なく粘り強く、問題に取り組むことができた。</li><li>・学習への取りかかりが早く、主体的に取り組む姿勢が整っていた。昨年度から継続して取り組んできた、よむYOMUワークシートの活用や、朝学習の成果が出ているといえる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・3年生の国語では、「作り方を説明する文章を書く」では誤答が46.4%となっている。二つの文章を読み取る力、文章を書く力が乏しい。</li><li>・5年生では、学年内で差が生まれていた。全教科で一番よい学級と10ポイント以上の差があった。</li><li>・高学年では理科、社会のD、E層の児童が3割となっていた。</li><li>・低学年では国語の聞き取り「話すこと・聞くこと」において課題がある。要点を落とさずに聞き取る他、問題を最後まで読まずに回答している傾向があった。</li></ul>

### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・全学年で「隣同士やグループで話し合うことがありますか」の問いについて、肯定率が全国平均を上回っている。</li><li>・全学年で「友達と意見が違っても、自分が正しいと思ったことは主張できますか」の問いについての肯定率が全国平均を上回っている。このことから、「自分の考えを聞いてもらえる」、「話しやすい学級環境が整えられている」と考える。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習状況調査の結果がD、E層の児童においては、自己肯定感が低い傾向が出ている。</li><li>・どの学年も、「友達に支えられている」と感じている児童が大半を占めている一方で、「今の学級が好きではない」と答えている児童も少数だがいる実態があった。その児童たちについて、気を付けて経過を見ていき、適切な指導や手だてが講じられるようにしていく。</li></ul>

### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・緑幼稚園や両国中、堅川中との連携を行い、学習規律の徹底と、学習習慣の定着が図れてきている。</li><li>・昨年度より、校内研究で取り組んできた成果が現れ、見通しをもって主体的に学習に取り組める児童が増えてきている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・全学年で、共通した指導方法の共有・実践に継続して取り組む必要がある。 (めあての提示・チョークの色・教室環境など)</li><li>・図書館司書との連携した授業を、全学年が積極的に実施していくようにする。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 学習環境の整備、学習習慣の定着

- ・日々の授業で ICT 機器（タブレット）を効果的に活用し、学習意欲や学力の向上につなげていく。家庭学習の質と量を工夫し、学習習慣の確立を図る。ロイロノートやミライシード等の活用を図り、主体的に課題に取り組み、家庭での繰り返しの活用に生かせるようにする。また、教員が児童の実施状況等を把握しながら、学習の定着を図れるようにする。
- ・ICT の活用だけではなく、ノート指導の両方を大切にし、それらを通して、見方・考え方を働かせる授業を意識して行う。児童一人一台のタブレット端末の活用に応じた授業を組み立てていく。
- ・低位の児童においては、放課後学習などにより、知識・技能の確実な定着を図る。（3年生を中心に）

### (2) 言語活動の充実

- ・場面に合った言語活動により、各自の思いやよさを共有したり、深めたりできるようにする。また、児童が自ら思いを語りたくなるような話材や教材を用意し、話し合い活動を通してよりよい考えが生まれるなどのよさを児童が実感できるようにする。
- ・児童が自分の考えを分かりやすく伝えることに自信がもてるようにするために、教師が日々の授業を通して、授業改善を行う。自ら考え、自分の思いや考えを生かした課題に向かう学習活動を取り入れ、授業改善を進めていく。
- ・週に1回は「よむ YOMU ワークシート」を4～6年生を主に継続して取り組む。読解力の向上と合わせ、自分の考えをもてるように、取組を積み重ねていく。

### (3) 個や少人数に応じた指導の充実

- ・算数科における授業では、習熟度別少人数指導を徹底して実施したことにより、各層に応じた授業内容を行っている。また、教員間で指導内容を共有することで、統一した指導を行うことができているため、引き続き実践を重ね、成果が現れるようにする。
- ・支援員を低学年中心に配置することで、個に応じた指導を充実させ、基礎的・基本的事項の定着を図る。
- ・定着が弱いところや、復習させたいところを抜粋して配信し、必ず実施・経過が把握できるようにして取りこぼしがないようにしていく。
- ・「問題データベース」「ふりかえりシート」の活用を朝学習の時間や長期休みを利用して取り組ませ、確かな学力の定着を図る。
- ・算数を中心に、「東京ベーシックドリル」を活用して、個の定着度を把握しながら、より効果的に振り返りの学習に取り組ませる。
- ・低学年は、ミライシードとまるぐランドを併用して活用し、定着を図る。

## 3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・各教科、各観点で、目標値を上回るようにする。
- ・各教科の活用問題において、目標値を5ポイント以上、上回るようにする。
- ・記述式の問題において、無回答をなくし、目標値を上回るようにする。
- ・D・E層の割合について、理科・社会科が25%以下になるようにする。